

# 一般社団法人 日本静脈経腸栄養学会

## 第 6 回定時社員総会議事録要旨

日 時：平成 31 年 2 月 13 日（水）16：00～19：00

場 所：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 3 階 慶雲＋白雲

議決権のある社員総数 237 名

総社員の議決権の数 237 個

出席社員数 194 名（委任状による出席 18 名を含む）

この議決権の総数 194 個

議 題：

### I. 理事長挨拶

定款第 5 章第 21 条に則り、第 6 回定時社員総会を開催することが宣言され、定款第 5 章第 23 条に則り、議長は理事長が務め、議事録署名は定款第 26 条に則り、柴田佳久代議員および富田真佐子代議員にお願いすることになった。また、代議員各位に対して、平成 30 年 12 月 22 日に開催された平成 30 年度第 1 回臨時社員総会での学会名称変更をはじめとした重要案件への審議・承認に対して謝辞が述べられた。

### II. 第 34 回学術集會会長挨拶

福島会長から多くの先生方のご協力のもと、学術集會の日を迎えられたことに謝辞が述べられた。

### III. 庶務報告

#### 1. 平成 30 年度第 1 回臨時社員総会報告

東口理事長から平成 30 年 12 月 22 日に平成 30 年度第 1 回臨時社員総会を開催し、以下の議案が審議され、満場一致で異議なく可決・承認されたことが報告された。

##### 1) 定款第 1 条 学会名称の変更について

当会名称を 2020 年 1 月 1 日から『一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会』、英文名称を『Japanese Society for Clinical Nutrition and Metabolism (JSCNM)』とする。学会の通称は、この法人の理念として『Justice, Science, Practice and Education for Nutrition』を掲げて、それぞれの頭文字を取り『JSPEN』と定め新たな出発を迎える。

##### 2) 定款第 4 条第 2 項 機関誌発行形態の追加について

2019 年 2 月より、電子ジャーナル「学会誌 JSPEN」が創刊されることを受けて、「機関誌（電子雑誌を含む）、論文図書等の刊行」に変更した。

##### 3) 定款第 11 条第 1 項 社員定数について

現在、本学会の代議員数は 237 名であるが、定款上の定めが実態に合っていないため、「250 名以上 300 名以内の代議員をもって、構成する。」を「200 名以上 300 名以内の代議員をもって、構成する。」に変更した。

##### 4) 定款第 38 条 事業年度について

現在の会期は毎年 1 月 1 日～12 月末日と定めている。法人法上、事業終了後 3 ヶ月以内である翌年の 3 月までに社員総会を開催し、計算書類・事業報告、監査報告について承認を得ること

になるが、3月には異動時期や年度末・年度始めの準備があるため、多職種で構成される当会の場合には、3月の定時社員総会・学術集会を開催は難しい状況にある。さらに現事業年度における2月の定時社員総会・学術集会を開催は、事業年度終了後約1ヶ月半程度という非常に短い準備期間で重要審議をお願いする現状になっており、運用・審議上も十分な時間の確保が望めないことから2月の定時社員総会・学術集会までの準備時間を十分に確保するため、2020年より事業年度を1ヶ月早め、毎年12月1日から翌年11月末日の会期へ変更した。具体的には、2019年1月1日から始まる事業年度は2019年12月末日までとし、2020年1月1日から始まる事業年度は2020年11月末日までとする。それ以後は、12月1日から翌年11月末日の会期に変更となる。

#### 5) 会費の変更について

ここ数年、当会の正味財産は増加傾向にある。2018年4月からは会員管理業務の自主管理への移行し、ウェブサイト管理業者の変更や認定更新・教育セミナー業務の委託先について見直し、本部事務局が直接する運営する形に移行した。年次学術集会についても収支改善など、学会運営全般の見直しを行い、学会の財務状況は確実に安定化の方向に進んでいる。以上の運営改善から会費を減額しても、学会の現事業は継続出来ると判断し、会員一人あたり1,000円の値下げを行うことが可能なところまで来た。そこで、2020年度から年会費を1,000円値下げする案で理事会にて審議を重ね、全会一致で承認した。また、定款施行細則の改訂は、基本的には理事会承認事項ではあるが、定款第7条によって、会費は社員総会において定めることとされているため、臨時社員総会で議案提出し承認を得た。

#### 6) 代議員の選任方法について

定款施行細則第14条には、「代議員の任期は選任後4年後の定時社員総会の終了のときまでとし、4年ごとに全員を改選する。」と規定されている。これは、現在の半数改選の運用と一致していると受け取られない可能性があるため、「代議員の任期は選任後4年後の定時社員総会の終了のときまでとする。」と改め、現在の運用との整合性を取った。

#### 7) 代議員の選任について

当会の将来展望のために、臨床栄養代謝領域の研究を行っている大学の教授で、まだ当会に携わっていない方を代議員として参加いただく人材登用の選択肢を確立していく必要も生じてきたこと、併せて現代議員・役員世代交代も考慮すると代議員の成熟が遅れる懸念もあるため、数年単位の時間を要せず、代議員や理事への就任をお願いできる制度の構築が必要であるとの提言が将来構想委員会より理事会に上げられた。具体的には、「理事会が特に必要と認めた者は、代議員候補者として、定時社員総会へ推薦され、定時社員総会の承認を得て代議員となることができる。」ことを新たに規定した。「理事会が特に必要と認めた者」の判断方法については、理事3名の推薦、栄養関係の論文と仕事、全てのIFが100以上、職種を問わないといった基準とした。定款施行細則の改訂は、基本的には理事会承認事項であるが、定款第11条第2項によって、代議員の選任方法は社員総会によって定めることとされているため、臨時社員総会で議案提出し承認を得た。

#### 2. 会員動向と年会費納入状況について

伊藤事務局幹事から平成30年12月31日時点の会員動向および年会費納入状況について、報告された。

■平成 30 年 12 月 31 日現在 ※宛先不明 81 名含む、退会・休会除く

会員種別	平成 29 年 12 月 31 日	平成 30 年 12 月 31 日	増減
名誉会長	2 名	2 名	±0 名
名誉会員	41 名	43 名	+2 名
特別会員	46 名	48 名	+2 名
代議員	230 名	237 名	+7 名
学術評議員(代議員は除く)	392 名	395 名	+3 名
正会員	20,281 名	20,401 名	+120 名
寄贈会員	7 名	7 名	±0 名
総数	20,999 名	21,133 名	+134 名

■職種別

\*ログインシステム未入力会

医師	4,595 名	管理栄養士	5,863 名	言語聴覚士	554 名
歯科医師	383 名	栄養士	89 名	歯科衛生士	108 名
看護師	3,780 名	臨床検査技師	705 名	診療放射線技	1 名
准看護師	4 名	理学療法士	382 名	その他 *	829 名
薬剤師	3,730 名	作業療法士	110 名	合計	21,133 名

■平成 30 年分会費納入率 ※宛先不明・退会・自動退会含む

会員種別	納入者数	未納者数	納入率(平成 29 年)
代議員	225 名	5 名	97.8% (99.1%)
学術評議員	367 名	25 名	93.6% (93.9%)
正会員	19,139 名	2,799 名	87.2% (89.8%)
総数	19,731 名	2,829 名	22,560 名

3. 平成 30 年度事業報告および平成 31 年度事業計画について (別添資料 参照)

伊藤事務局幹事から平成 30 年度事業報告および平成 31 年度事業計画が提出され、異議なく承認された。

IV. 理事選挙 (選挙管理委員長：鍋谷理事)

1. 選挙管理委員の選出について

鍋谷選挙管理委員長から定款第 4 章第 13 条、定款施行細則第 3 章第 11 条、第 4 章第 16 条・第 17 条、第 5 章第 20 条に則り、本社員総会にて、代議員による理事改選を行うことが説明された。また、選挙管理委員については、以下の 5 名が規程に従い代議員より選出された。

池松禎人、巨島文子、田崎亮子、野田さおり、松原 肇 各代議員 (敬称略・五十音順)

2. 理事選挙の実施について

鍋谷選挙管理委員長から理事選挙投票に関する留意事項について説明がされ、議場閉鎖後、投票が執り行われた。

V. 会計関連事項 (会計関連資料 参照)

はじめに木村前会長から第 33 回学術集会在が無事終了したことへの謝辞が述べられ、引き続き、同学術集会の収支報告がされた。伊藤事務局幹事より平成 30 年度会計報告書類から公認会計士の指導により、法人化後の運用体制が整ってきたことを受けて、公益法人会計基準に基づく会計報告書式に変

更したことが説明され、平成 30 年度貸借対照表、正味財産増減計算書、その他の財務諸表について報告がされ、承認された。続けて、大野伸幸公認会計士より独立監査人としての監査報告がされた。平田監事からは理事会審議に先立って 4 名の監事で貸借対照表、正味財産増減計算書、その他の財務諸表と関係帳簿を照合し、会計帳簿書類及び財政状態について、いずれも適法かつ正確であることを確認したこと、理事会でも承認を受けたことが報告された。続けて、福島財務委員長から公益法人会計基準に基づく平成 31 年度会計・各委員会の予算書（案）が提出され、承認された。

## VI. 各種委員会・部会 審議事項

### 規約委員会（鷲澤理事）

1. 学会名称変更および現行の事業運用に則した以下の変更案が提出され、全会一致で承認された。

現行定款	変更案
<p>事業</p> <p>第 4 条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。</p> <p style="text-align: center;">. . .</p> <p>(4) 栄養学に関する研究及び調査</p>	<p>事業</p> <p>第 4 条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。</p> <p style="text-align: center;">. . .</p> <p>(4) <u>代謝及び</u>栄養学に関する研究及び調査</p>
<p>事業計画及び収支予算</p> <p>第 40 条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の決議を経なければならない。これを変更する場合も、同様とする。</p>	<p>事業計画及び収支予算</p> <p>第 40 条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日<u>もしくは、新事業年度開始後可能な限り速やかに</u>、理事長が作成し、理事会の決議を経なければならない。これを変更する場合も、同様とする。</p>

2. 学会名称変更に伴う各種規約の変更について

学会名称の変更が承認に伴い、2020 年 1 月 1 日より当会の名称は「一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会」と改名される。それに伴い 2020 年 1 月 1 日を施行日として各種規約の該当箇所を変更することが、全会一致で承認された。

「日本静脈経腸栄養学会」→「日本臨床栄養代謝学会」

### 代議員・学術評議員選考委員会（野上理事）

平成 30 年 12 月 23 日に代議員・学術評議員選考委員会を開催した。30 名からの学術評議員申請があり、新学術評議員として 30 名を選考した。また、代議員・学術評議員審査申請書類の一部文言を修正した書類改訂案が提出され、来年度の書式とすることが承認された。

### 保険委員会（飯島理事）

新元号 2 年度（2020 年度）診療報酬改定に向けての当会の方針案が提示・説明され、承認された。すでに次期診療報酬改定作業は始まっており、2018 年 11 月 30 日締切りの外保連アンケートに下記項目を要望したことが報告された。

① NST 加算に地域連携を反映させる。

② 在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料に1年後も算定可能な除外規定を追加する。

また、②に関連し、2020年度の診療報酬に向けたエビデンスの構築のため、レジストリ型データベースとしてREDCapシステムを使用し、在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料の算定に関するEDCを用いた症例登録型データベースの構築についての提案と説明がされ、本事業の実施について承認された。

#### **認定医・指導医制度委員会（福島理事）**

認定医・指導医制度規約・細則、認定歯科医制度規約・認定歯科医暫定認定規約の変更について学会名称の変更に伴い、認定医・指導医・認定歯科医制度における制度規約にある学会名称も2020年1月1日を施行日として変更する。また、附則として、過去に発行した認定証・修了証は特段の手続きを行わなくても、学会の名称の前後を問わず、有効であり当会に帰属するものとして取り扱うことが説明され、一連の規約の変更について承認された。

#### **専門療法士認定制度委員会（三原理事）**

##### 1. 学会の認める全国学会・地方会・研究会について

2018年に申請のあった1セミナー、4研究会について審査を行い、NSTベーシックコースは5単位を付与すること、4研究会について2単位付与することが、承認された。

##### 2. 栄養サポートチーム専門療法士認定規程・施行細則の変更について

学会名称の変更に伴い、専門療法士認定規程・施行細則にある学会名称も2020年1月1日を施行日として変更する。また、附則として、過去に発行した認定証・修了証は特段の手続きを行わなくても、学会の名称の前後を問わず、有効であり当会に帰属するものとして取り扱うことが説明され、一連の規約の変更について承認された。

#### **NST委員会（鷲澤理事）**

NST委員会内規及びNST稼働施設認定規程の変更について

学会名称の変更に伴いNST委員会内規、NST稼働施設認定規程にある学会名称も2020年1月1日を施行日として変更する。また、附則として、過去に発行した認定証・修了証は特段の手続きを行わなくても、学会の名称の前後を問わず、有効であり当会に帰属するものとして取り扱うことが説明され、一連の規約の変更について承認された。

#### **学術集会検討委員会（犬飼理事）**

##### 1. 2022年第37回学術集会開催日程の変更について

昨年（2021年）の第5回定時社員総会において2022年第37回学術集会の開催地であるパシフィコ横浜での開催日程について、利用可能な施設使用の観点から、参加者の利便性を考え開催日程の変更が提案され、承認された。

新会期：2022年2月10日（木）～11日（金）

開催地：横浜（パシフィコ横浜：国立大ホール、会議センター全館、展示ホールAB、アネックスホール）

##### 2. 2023年第38回学術集会開催地について

2023年は関西地域での開催を優先し、会場調査を進めた。今回、神戸（神戸国際会議場 他）が、

以下の開催期間での会場確保ができたため、2023年の開催地として提案がされ、承認された。

会期：2023年2月16日（木）～17日（金）

開催地：神戸（神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル）

#### **臨床栄養代謝専門療法士制度について（臨床栄養代謝専門療法士制度タスクフォース）**

**総務委員長 飯島理事、教育委員長 鍋谷理事、将来構想委員長 比企理事**

本制度タスクフォースメンバーの比企理事・飯島理事より、施行に向けた概要説明、本申請および暫定申請の内容とスケジュールについて説明がされ、新認定制度の施行・実施について全会一致で承認された。

臨床栄養代謝専門療法士認定制度は、NST 専門療法士の上部資格として、9つの専門領域（※1）から自ら専門としたい一領域を選択し、取得申請（※2）を行う制度である。専門領域の取得数については理事会でも議論を重ねたが、取得領域を一領域に限定することで本認定資格の価値を高め、領域取得においてコレクター化されることを防ぐ。また、一領域に限定することは、上部資格制度としての事務手続きの煩雑化を防ぎ、質の高い認定制度の確立と継続を望むことを目的としていることが説明された。

※1 1) がん専門療法士、2) 肺疾患専門療法士、3) 肝疾患専門療法士、4) 腎疾患専門療法士、5) リハビリテーション専門療法士、6) 在宅専門療法士、7) 小児領域専門療法士、8) 摂食嚥下専門療法士、9) 周術期・救急集中治療専門療法士の9領域とする。

※2 本認定制度の施行開始にあたり、5年間の暫定認定期間を設ける。

### **VII. 各種委員会・部会 報告事項**

#### **【総務統括部門】**

##### **総務委員会（飯島理事）**

2018年4月より会員管理を自主管理体制に移行した。学会ウェブサイトも新しいドメインを取得し運営体制を刷新した。まだ準備中の機能もあるが、会員の利便性とサービス向上のため、引き続き運営改善に努めていく。

##### **規約委員会（鷲澤理事）**

以下の規約改定について審議・確認を行なった。また、ウェブサイトへの各種規約掲載のため関係委員会と協議を進めた。

- 1) 薬剤師部会内規改定案、2) 栄養士・管理栄養士部会内規改定案、3) 看護師部会内規改定案
- 4) 倫理委員会内規改定案、5) 定款細則の改定案

#### **【渉外部門】**

##### **国際委員会（小谷理事）**

1. ESPEN-JSPEN Joint meeting at Madrid の報告について

2018年9月2日に、The IFEMA Congress Centre in room A09.14にて ESPEN-JSPEN Joint meeting が開催された。ESPEN・JSPENの協力体制の確認と双方の活動に関する意見・情報交換を行った。

2. PENSA 2018 in Seoul の報告について

2018年6月13日～16日に、Ho-Seong Han 先生 (Seoul National University Bundang Hospital, Korea) が会長のもとにソウルで開催された。

### 3. ESPEN Winter Meeting の報告について

2019年1月12日に開催され、日本からは福島副委員長が参加した。

- 1) ESPEN 会員数は 3,500 名以上となった。日本は全体の 7 番目の登録者数となる。会員数の内訳は、各国のブロックメンバーが 3,084 名の構成となり、日本は 117 名のブロックメンバーが登録しており、フランスに次いで 8 番目であった。
- 2) 総会の参加者も概ね右肩あがり直近では 3,536 名、2004 年頃は 2,000-2,500 名であった。
- 3) Rocco BARAZZONI 新理事長の方針表明があった。
- 4) Scientific Committee: 学会の演題数は 2016/2017/2018 は 682/790/1015 であった。
- 5) IT officer report: ツイッターを開始した。現在のフォロワーは 800 名程度
- 6) Clinical Nutrition (CN) の IF は 5.5 になった。投稿論文数も非常に増えてきている。採択率はほぼ同じで推移している。CN ESPEN も PubMed に掲載されるようになった。
- 7) Guideline: これまで発行したものと今後の予定の報告があった。アプリの製作中であり各国語に翻訳希望があれば、ご連絡いただきたいとのこと。
- 8) 今後の ESPEN の予定

2019 年 クラクフ (ポーランド) : 2019 年 8 月 31 日～9 月 3 日

2020 年 リヨン (フランス) : 2020 年 9 月 19 日～22 日

2021 年 ミラノ (イタリア)

2022 年 ウイーン (オーストリア)

### 4. LLL ワーキンググループ活動報告について

#### 1) 第 14 回 LLL ライブコースについて

2018 年 3 月 17 日～18 日 東邦大学 (大森キャンパス) で 8 コースを開催した。

#### 2) 第 15 回 LLL ライブコースについて

2018 年 8 月 4 日～5 日 東海東京証券(株)オルクドール・サロン (名古屋) で 8 コースを開催した。

#### 3) 第 40 回 ESPEN Congress マドリードでの LLL Teacher と LLL diploma の取得について

2018 年 9 月 2 日に以下 3 名が LLL Teacher 資格を取得した。

池松禎人、菊池剛史、西村智子 (敬称略・五十音順)

2018 年 9 月 3 日に以下 6 名が LLL diploma を取得した。

田中啓之 (医師)、永野彩乃 (看護師)、長沼 篤 (医師)、牧 香代子 (看護師)、松井亮太 (医師)、和田 碧 (管理栄養士) (敬称略・五十音順)

#### 4) 第 16 回 LLL ライブコースの開催予定

2019 年 3 月 16 日～17 日 北里大学 (白金キャンパス) 6 コース開催で予定

### 5. nutritionDay に関する昨年の進捗状況について

2018 年は 11 月 15 日に nutritionDay と定め調査が行われた。2019 年は現時点では未定。

2017 年 11 月 9 日に行われた調査において、全世界で 9,133 症例の登録があり、日本は 822 症例 (national report には同意の得られた 694 症例) でベルギー、中国についで 3 位であった。oncology の登録数は全世界では 1,064 例で、日本は 186 症例 (national report には 180 症例) でベルギーについで 2 位であった。

## 保険委員会（飯島理事）

### 1. 平成 30 年度診療報酬改定結果について

【新設】C105-3 在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料 2,500 点

C162 在宅経管栄養法用栄養管セット加算（本加算へ適応拡大） 2,000 点

### 2. 厚生労働省への意見書、要望書の提出について

1) 高圧注入 PICC（製品名『パワーPICC』、『パワーPICC SOLO』）および、留置支援ナビゲーションシステム（製品名『シャーロック 3CG』）（メディコン）

2) 不採算再算定に関する要望書；安定供給のため、臨床現場で必要性の高い製品の採算薬価を見直す。2年おきの診療報酬改定と同時実施。医療現場での製品の必要性を医学専門家として学会が要望書として提出。

(1) ES ポリタミン<sup>®</sup>配合顆粒（EA ファーマ）

(2) ツインライン NF 配合経腸用液（イーエヌ大塚）

(3) 臨床栄養領域における輸液製剤の必要性に関する意見書（輸液製剤協議会）

### 3) 静脈栄養製剤の禁忌事項の見直しに関する要望書

従来はきわめて困難であった添付文書記載の禁忌事項に関する変更が、昨今行われるようになり、かねてより指摘のあった「静脈栄養製剤が重篤な腎障害患者への投与が禁忌扱いされている」件に関して要望書を昨年度提出した。

4) 小野薬品工業から、グレリン製剤であるアナモレリンの早期適応取得に関する要望書依頼があり、提出した。

### 3. 在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料に関するウェブサイト情報ページの作成と関連リンク

医療現場での疑問に対応し、適切に実施管理していただくために、当会ウェブサイト上に本指導管理料に関する説明や疑義解釈等の掲載を順次進めていく。

## 広報委員会（飯島理事）

### 1. 学会ウェブサイトの更新について

2018 年度より従来の会員管理を含めたウェブサイト全般の管理は総務委員会へ移行し、主としてウェブサイト以外も含めた広報機能全般を担当することになった。2018 年 4 月 1 日更新されました新ウェブサイトでは、これまで主として会員向けだったウェブサイトに非会員や一般向けの新しい広報機能を追加していく予定である。

### 2. 第 30 回日本医学会総会 2019 中部分科会展示案について

第 30 回日本医学会総会 2019 中部分科会（2019 年 4 月 27 日～29 日）に展示参加をすることが決定しており、パネル・映像展示作成要項に基づき、作成し提出した。

### 3. 誤接続防止新規格コネクタ（IS080369-3）の周知活動の推進について

2019 年 12 月より経腸栄養分野で新規格のコネクタが流通開始となった。このコネクタは誤接続防止のためのもので、世界的に互換性のある規格となる。栄養分野でも多くの製品が対象となり、在宅を含む幅広い医療者に周知する必要がある。当会では、今回の学術集会をはじめ、学会ウェブサイトや関係する様々な機会での周知活動を展開していく。



## 【支部部会部門】

### 支部会活動委員会（丸山理事）

支部長の変更と確認、支部会ウェブサイトの移行推進を行った。また、平成30年は10支部で以下のとおり支部学術集会在開催された。

北海道	第11回北海道支部例会：札幌	平成30年1月27日
東北	第33回東北静脈経腸栄養研究会：仙台	平成30年12月15日
関東甲信越	第6回関東・甲信越支部学術集会：甲府	平成30年10月28日
首都圏	第10回首都圏支部学術集会：東京	平成30年6月2日
東海	第12回東海支部学術集会：津	平成30年7月1日
北陸	第9回北陸支部会例会：福井	平成30年8月18日
近畿	第10回近畿支部学術集会：神戸	平成30年7月7日
中国	第11回中国支部学術集会：呉	平成30年8月18日
四国	第10回四国支部学術集会：徳島	平成30年9月1日
九州	第10回九州支部学術集会：福岡	平成30年10月20日

### 職能別活動検討委員会

#### 栄養士・管理栄養士部会（伊藤理事）

平成30年2月21日、5月12日に会議を開催し、第34回学術集会におけるパネルディスカッションテーマや演者、NSTベーシックコース等のテーマなどについて協議を行った。

### 薬剤師部会（倉田理事）

#### 1. 薬剤師部会会議の開催について

平成30年2月21日、7月22日、12月22日に会議を開催し、平成30年の活動および第34回学術集会時の特別講演、LLL事前学習会、連絡ツール・ウェブサイトの活用などの活動計画について検討を行った。

#### 2. 「薬剤師部会 代議員・学術評議員の集い」の開催について

平成30年2月22日に参加者：代議員、学術評議員、当会会員の薬剤師で集まり、現場で頑張る薬剤師同志の意見および情報交換を行なった。

#### 3. 第22回NST専門療法士スキルアップセミナーについて

平成30年9月2日に福岡国際会議場にて開催した。参加者は98名（参加申込：100名）であった。

#### 4. 薬剤師部会LLL事前学習会開催について

LLLライブコースに併せて、以下のとおり事前学習会を開催した。

第1回（昭和大学）：①平成29年12月9日、②平成30年1月13日、③平成30年2月17日

第2回（昭和大学）：①平成30年5月19日、②平成30年6月16日、③平成30年7月21日

### 看護師部会（篠理事）

平成30年2月21日、8月11日、12月16日に会議を開催し、第34回学術集会での看護師部会がパネルディスカッションのテーマとした『気づく、繋げる、広げる栄養看護』を3ヵ年計画で展開し、栄養管理の充実に取り組んだ。

## 【教育・奨励部門】

### 教育委員会（鍋谷理事）

#### 1. 2019年 NST 専門療法士受験必須セミナーについて

以下のとおり 2019年 NST 専門療法士受験必須セミナースケジュールを最終決定した。

第1回：2019年2月15日・16日：TKP ガーデンシティ品川

第2回：2019年5月18日・19日：東京ビッグサイトレセプションホールA

第3回：2019年6月22日・23日：京都国際会館アネックスホール

第4回：2019年9月21日・22日：毎日新聞オーバルホール

#### 2. 第5回 JSPEN 栄養マスターコースについて

第5回 JSPEN 栄養マスターコースを3月31日に開催する。（第6回は、詳細未定）

#### 3. NST ベーシックコースについて

第1回 NST ベーシックコースを2018年11月18日にAP名古屋、名駅にて、栄養士・管理栄養士部会の担当企画として、教育委員会・職能別活動検討委員会（栄養士・管理栄養士部会、薬剤師部会、看護師部会）主催で開催した。

第2回 NST ベーシックコースは、薬剤師部会の企画担当のもと、2019年11月17日にAP東京八重洲通り（予定）で開催する予定である（定員80名予定）。

### 小越章平記念 Best Paper in The Year 選考委員会（山中理事）

選考委員会選考基準にしたがい、下記の2名を受賞論文として決定した。第34回学術集会において受賞者記念講演と表彰式を執り行う。

#### ○高木弘誠、他（岡山大学病院 消化器外科）

「臍頭十二指腸切除術における ERAS (Enhanced recovery after surgery) の有効性に関するランダム化比較試験」

「Effect of an enhanced recovery after surgery protocol in patients undergoing pancreaticoduodenectomy: A randomized controlled trial」 (CLINICAL NUTRITION)

#### ○舘 佳彦、他（藤田医科大学坂文種報徳會病院 消化器内科）

「慢性肝疾患患者における骨格筋脂肪化の肝発癌への影響」

「Skeletal muscle fat deposition is associated with hepatocellular carcinoma development in patients with chronic liver disease」 (Nutrition)

### フェローシップ委員会（三原理事）

#### 1. 受賞者選定について

1) 平成30年の第33回学術集会応募者セッションにおいて発表された候補者の中から、厳選な審査の結果、以下1名を受賞者として選定した。

西岡心大先生には、第34回学術集会の受賞者講演において研究成果をご発表いただく予定である。

西岡心大（長崎リハビリテーション病院 法人本部口のリハ推進室）

「MNA-SFとGNRIは恒例回復期脳卒中患者におけるスクリーニングに妥当か？」

なお、昨年の審査会で演題名の変更が提案されたため、演題名は下記に変更された。

「回復期脳卒中患者におけるMNA-SFおよびGNRIの併存的・予測的妥当性の検証」

2) 第34回学術集会では、演題公募に際して本賞への応募を希望した59題のうち、条件を満たした40題から抄録にて9名を選考し、応募者セッションにて発表予定である。

## 2. 副賞の目的と取り扱いについて

本賞の受賞後、受賞条件を満たした受賞者には、副賞を授与している。副賞については税務上も課税対象とし税務処理もしていることもあり、申請時の提出資料については証憑等の提出を義務付けている。運用上においていくつか明確にしておくべき事案があったため、本委員会で検討を行うことになった。

### TNT 委員会（福島理事）

平成30年は計15回の研修会を開催し900名が受講修了した。平成31年も合計15回の研修会を予定している。

### スカラーシップ賞選考委員会（鈴木理事）

本賞は平成29年まで企業スポンサーの位置付けであったが、今年から学会のAwardとして改め、JSPEN スカラーシップ賞として新設した。本年は薬剤師1名からの応募があり、選考委員会選考基準に従い、本賞に相応しい応募かどうかを審査し、以下のとおり決定した。今年の第6回定時社員総会にて表彰し、来年の第35回学術集会で受賞講演が予定されている。

神谷貴樹（滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部）

### YOUNG INVESTIGATOR AWARD 選考委員会（倉田理事）

YOUNG INVESTIGATOR AWARD 2019 について選考委員会で選考した結果、今年度は対象者なしとなったことが報告された。

### 大柳治正記念学術振興Award選考委員会（小谷理事）

#### 1. 第34回学術集会での受賞者と関連講演者について

選考委員会選考基準に従い、受賞者を決定した。また、2名の関連講演を行う者を決定した。

第34回学術集会にて、受賞講演および関連講演が行われる。

受賞者講演：東海林 徹先生（日新薬品株式会社学術情報部）

関連講演：倉本敬二先生（国際医療福祉大学薬学部）、野崎 歩先生（京都桂病院薬剤科）

#### 2. 第35回学術集会での受賞者と関連講演者の選定について

選考委員会選考基準に従い、受賞者と関連講演者を決定する。実際の会議に加えて持ち回り審議（選考委員会）を実施する。受賞者及び関連講演者は第35回学術集会にて受賞講演が予定されている。

### YOUNG DOCTORS AWARD 選考委員会（山中理事）

第34回学術集会時の演題応募において本Award応募がなかった。

広報活動と演題募集のウェブサイトからの応募ができないことも要因と思われるため、フェローシップ賞のように、演題応募のページから応募申請ができるよう提案を行った。

## 【認定・資格検討部門】

### 認定医・指導医制度委員会（福島理事）

#### 1. 認定医試験結果について

平成 30 年 11 月 4 日に施行された認定医認定試験にて、30 名が合格し認定医として認定した。

#### 2. 指導医の認定について

審査を経て、申請のあった 6 名について指導医資格条件を満たしていることを確認し、指導医として認定した。

#### 3. 指導医 資格更新審査結果について

審査を経て、14 名を指導医資格更新者について指導医更新資格条件を満たしていることを確認し、指導医更新者として認定した。

#### 4. 指導医 終身認定移行者について

指導医 2 名が平成 31 年 3 月 31 日をもって指導医期間が満了となり、終身認定へ移行される。

#### 5. 認定医 資格更新審査結果について

審査を経て、47 名を認定医資格更新者として認定医更新資格条件を満たしていることを確認し、認定医更新者として認定した。なお、うち 34 名は平成 29 年救済措置申請者であり、救済期間中に認定医更新条件を満たし更新申請を行った。

#### 6. 認定医 終身認定移行者について

認定医 5 名が平成 31 年 3 月 31 日をもって認定医期間が満了となり、終身認定へ移行される。

#### 7. 暫定認定歯科医について

審査を経て、申請のあった 5 名を暫定認定歯科医として認定した。

#### 8. 認定歯科医試験結果について

平成 30 年 11 月 4 日に施行された認定歯科医認定試験について、5 名が合格し認定歯科医として認定した。

### 専門療法士認定制度委員会（三原理事）

#### 1. 2018 年度 NST 専門療法士認定試験の結果報告について

受験申請者 1,125 名（前年より-47 名）のうち、受験者数は 1,040 名（前年より-60 名）であった。全受験者数の平均点は 66.51 点と昨年の 62.23 点を上回った。合否判定委員会で審議し、44 問（55.00%）を合格ラインとした。その結果、合格者数は 821 名で、合格率は 78.94%であった。

#### 2. NST 専門療法士認定更新の結果について

更新対象者 2,074 名のうち、申請受付は 1,665 名、未更新は 409 名であった。審査を経て 1,647 名を更新認定者として認定した。

#### 3. 認定教育施設新規および更新について

更新対象 98 施設のうち、63 施設が更新の手続きを行い、引き続き認定教育施設として認定した。新規申請は 19 施設あり、審査を経て 19 施設が認定教育施設として認定された。

#### 4. 認定試験ワーキンググループについて

平成 30 年より認定委員会は認定試験ワーキンググループとして再編成し、試験問題作成担当（試験当日の試験官担当兼務）、試験問題選択担当（症例報告書の審査兼務）して活動した。

#### 5. 2019 年 NST 専門療法士更新必須セミナーについて

1)以下のとおり 2019 年 NST 専門療法士更新必須セミナースケジュールを最終決定した。

第 1 回：2 月 14 日：TKP ガーデンシティ品川（定員 700 名）

第 2 回：4 月 28 日：京都国際会館 アネックスホール（定員 550 名）

第 3 回：5 月 19 日：東京ビッグサイト レセプションホール B（定員 350 名）

第 4 回：10 月 20 日：大坂サンライズビル イベントホール（定員 400 名）

2)セミナー講演内容【講演順・時間はその都度調整】

① 炎症性腸疾患の病態と栄養管理 講師：佐々木雅也先生

② 半固形栄養経管栄養法について 講師：飯島正平先生

③ 地域一体型 NST について 講師：鷺澤尚宏先生

④ 周術期管理と ERAS 講師：宮田 剛先生

6. 2019 年認定試験について

2019 年 11 月 3 日に国立京都国際会館で開催する予定。認定医・認定歯科医も同日開催予定。

### NST 委員会（鷺澤理事）

1. NST 稼働施設認定について

新規 7 施設、更新 373 施設を認定した。更新年であったが、申請しなかった施設の施設長には、改めて通知を送付し更新確認を行う。

2. NST フォーラムについて

学術集会時の NST 委員会の事業として開催した。平成 31 年 2 月 15 日（金）15：00～17：40【第 1 会場】にて、「NST 加算について今一度考えるー平成 30 年度改定を受けてー」をテーマに NST フォーラムを開催する。NST フォーラムでは厚生労働省の方をお招きし、これまでも貴重なご講演いただいた。今回もお越しいただけることになり、貴重な機会となるため、NST フォーラムへ是非参加いただきたいとの案内がされた。

### 編集委員会（佐々木副理事長）

1. 年度別掲載状況（過去 5 年）について（平成 30 年 12 月 31 日現在）

日本静脈経腸栄養学会雑誌

年	巻	原著	症例報告	総説 (特集)	臨床 経験	施設 近況報告	研究 報告	地方会 抄録	学会から の報告	計
2014	29	17	7	44	6	2	1	42	0	119
2015	30	19	9	34	9	3	4	33	0	111
2016	31	15	10	32	4	1	2	33	0	97
2017	32	20	12	33	13	6	6	34	0	124
2018	33	18	5	28	6	4	4	34	0	99

2. 査読状況について（平成 29 年 12 月 16 日～平成 30 年 12 月 31 日）

郵送投稿：新規投稿数 46 本（平成 29 年 71 本、平成 28 年 61 本）、採用 10 本、著者修正中 14 本、査読中 11 本、査読後再投稿なし 3 本、掲載不相当 8 本であった。

オンライン投稿：新規投稿数 16 本、採用 1 本、著者修正中 9 本、査読中 4 本、査読後再投稿なし 0 本、掲載不相当 1 本、ESPEN 報告 1 本であった。

3. 原稿受領から採用決定までの日数について

該当論文 41 本の平均日数 101 日（最短 29 日／最長 230 日）、採択決定後、6 ヶ月以内に掲載している。

#### 4. 電子ジャーナル (J-STAGE) について

以下のとおり『日本静脈経腸栄養学会雑誌』を公開した。

33 巻 Supplement 2018 年 2 月 26 日公開、33 巻 1 号 4 月 20 日公開、33 巻 2 号 6 月 20 日公開、  
33 巻 3 号 8 月 20 日公開、33 巻 4 号 10 月 20 日公開、33 巻 5 号 12 月 20 日公開

#### 5. 座長推薦論文について

JSPEN 2018 では、該当演題の座長より 57 件の推薦があり、投稿案内をおこなった。現在までに  
3 本の論文が投稿されている。JSPEN 2017 では、85 件の推薦に対し、10 本の論文が投稿され、  
8 本 (原著 5 本、臨床経験 1 本、施設近況報告 1 本、研究報告 1 本) の掲載が確定した。今回、第  
34 回学術集会でも座長推薦の依頼を実施する。

#### 6. ANNALS OF NUTRITION AND METABOLISM (ANM 誌) について

2017 年 10 月より会員専用ページ経由で同誌のオンライン購読を開始した。当会会員の論文を中心  
として Japan-Topic が企画、掲載され、日本の栄養学の海外情報発信に貢献した。

#### 7. 学会誌 JSPEN 創刊について

2019 年 2 月 1 日に e-journal 「学会誌 JSPEN」 Vol.1 No.1 を創刊する。原著 3 編、症例報告 2 編、  
施設近況報告 2 編、用語解説 1 編の計 8 編を掲載する。また、第 34 回学術集会抄録集についても、  
「学会誌 JSPEN」 Supplement 号として位置づけた。「学会誌 JSPEN」の掲載論文や Supplement に  
ついては、発行 6 か月後に J-stage へ搭載となる。

### 用語委員会 (鍋谷理事)

学会誌のオンラインジャーナル化で少し遅れたが、待望の第一稿「腸管リハビリ」を公開した。現在  
「ビタミン B1」、次いで「サルコペニア肥満」として掲載予定で、継続的に読者に有益な情報を提  
供できるように、これまで選択された用語について執筆を進めていく。

### 倫理委員会 (鷲澤理事)

近年、学会活動において、倫理的な配慮を行うことが必須となっている。当会会員の活動にも関わる  
重要事案となるため、当会の指針など会員の皆様に提供できるよう協議を進めていく。

### 利益相反委員会 (伊藤理事)

当会の利益相反指針に従い、当該役員・各種委員会メンバーに対して、COI 報告書の提出を依頼し確  
認を行った。

## 【臨床栄養推進部門】

### ガイドライン委員会 (小谷理事)

#### 1. ガイドライン作成の状況報告について

現在、JSPEN ガイドラインはトピックごとに改定を予定している。前回は周術期の栄養療法を予定  
していたが、他学会が同様のガイドラインを作成しており、同じトピックのガイドラインが乱立  
するのを避けるため、一度、周術期の栄養療法ガイドライン作成グループは凍結し、がんのガイド  
ラインを作成することが理事会で決定された。現在、ガイドラインパネル班メンバー候補の選定およ  
びシステムティックレビュー班の公募の準備を進めている。

2. 高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン(案)の査読について  
2018年7月「高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン(案)」作成委員会からの当会に関連する項目のCQについて査読外部委員の推薦依頼があり、理事会審議を経て2名の代議員を推薦した。
3. 日本食道学会からのガイドライン検討委員派遣依頼について  
日本食道学会より「食道癌診療ガイドライン第5版」発刊に向けた協力として、当会へ作成協力団体の依頼と評価委員の推薦依頼があり、本委員会より1名を派遣委員として推薦した。
4. 日本医学会連合から診療ガイドライン統括委員長会議について  
日本医学会連合から診療ガイドライン統括委員長会議の案内があり委員長が参加した。Mindsのレクチャーと並行して、診療ガイドライン作成における様々な問題点を、他学会の診療ガイドライン作成者と意見交換を行った。

### 臨床研究委員会（丸山理事）

1. 多施設共同研究の学会発表と英文論文文化について  
委託研究「ペクチン含有消化態濃厚流動食品の臨床的有用性および安全性の検討」（多施設共同研究）の学会発表と英文論文文化を行った。
2. 2018年度臨床研究の募集について  
2018年より新設された臨床研究助成事業であるが、応募件数が0件であった。2019年は公示方法等を再検討し、当会の研究活動の助成につなげたい。
3. 誤接続防止コネクタ検討ワーキンググループ新ISOコネクタについて
  - 1) 新国際規格ISO誤接続防止コネクタの基礎的な通過実験の結果について英論文として発表した。  
Annals of Nutrition & Metabolism 73: 169-176, 2018  
Michio Maruyama, Shohei Iijima, Ishibashi Nobuya, Michio Inukai, Tetsuharu Oriishi, Naruo Kawasaki, Naomi Kurata, Suzuki Yutaka, Isao Tabei, Chiba Masahiro, Rtsuko Nakamura, Takashi Higashiguchi: Feasibility of international proposed standardized enteral connector for semi-solid formula feeding
  - 2) 新国際規格ISO誤接続防止コネクタの官能実験の結果を本学会誌に委員会報告として投稿中。
  - 3) 第34回学術集会の教育講演にて情報を発信する。

### 【代謝研究推進部門】

#### 治験委員会（中瀬理事）

##### 治験に関するアンケート・意見調査について

昨年「企業から本学会に治験依頼があった場合に対応し、エビデンスレベルに匹敵する質の高い研究を本学会が主導する。そのために関連する各委員会と連携しながら治験依頼に対応していく。」との活動方針を報告した。メール審議を通し「学会及び学会員のアイディアの質・量、治験に対する潜在的ニーズなどを明らかにし、得られた結果を企業への提示のみならず、関係委員会と共有することにより当会の活動に役立てる」ことを目的とし、アンケート・意見調査を計画する方針となり、いくつかの案をもとに作成中である。

### 実験研究委員会（山中理事）

1. 平成 30 年度実験研究補助金について、審議の結果、下記 1 名に決定した。

○奥川喜永（三重大学大学院消化管・小児外科学講座）【補助金額 50 万円】

研究課題名：大腸癌における Cancer-induced Cachexia のエピジェネティックな因子の解明と制御

2. 平成 29 年度実験研究補助金採用者 2 名が研究成果を第 34 回学術集会で発表する。

○加治 建（鹿児島大学病院 総合臨床研修センター）【補助金額 50 万円】

研究課題名： $\omega$  3 系脂肪乳剤の腸管不全合併肝障害（IFALD）に対する肝障害予防効果  
—短腸ラットモデルを用いた検討—

○橋詰直樹（久留米大学 小児外科）【補助金額 50 万円】

研究課題名：閉塞性黄疸モデルを用いたアスタキサンチンの抗酸化作用と肝繊維化抑制の  
新たな解析

### 病態別栄養管理委員会（比企理事）

ESPEN 2019 にて GLIM-II の提案を受けた GLIM Criteria について報告と紹介がされた。

## VIII. 第 37 回学術集會會長選出

第 37 回（次々回）学術集會會長に、飯島理事が立候補され、承認された。

## IX. 第 35 回（次回）学術集會會長挨拶

第 35 回（次回）学術集會會長の佐々木副理事長より、会期：2020 年 2 月 27 日（木）～28 日（金）として、京都市（国立京都国際会館 他）にて開催し、メインテーマは“栄養療法のイノベーション—栄養学の未来を拓く—”としたことが報告された。

## X. 第 36 回（次々回）学術集會會長挨拶

第 36 回（次々回）学術集會會長の鍋谷理事より、会期：2021 年 2 月 18 日（木）～19 日（金）として神戸市（神戸国際会議場・国際展示場・ポートピアホテル）にて、開催することが報告された。

## XI. 再任理事信任

定款第 16 条および定款施行細則第 16 条により、非改選による信任理事の再任について、全会一致で承認された。

石井良昌、犬飼道雄、倉田なおみ、斎藤恵子、篠 聡子、高増哲也、中瀬 一、鍋谷圭宏、野上哲史、二村昭彦、三原千恵、山中英治、吉田貞夫（敬称略・五十音順）

## XII. 選挙理事選出

定款第 16 条および定款施行細則第 16 条により、改選選出された以下 10 名の選出理事の選任について、全会一致で承認された。

飯島正平、遠藤陽子、小谷穰治、小山 諭、佐々木雅也、鈴木 裕、東口高志、福島亮治、丸山道生、鷺澤尚宏（敬称略・五十音順）

上記、再任理事・選挙理事の選任の後、該当理事・監事は別室へ理事長予定者会議のため一時退室。



### XIII. 推薦理事選出

定款第 16 条および定款施行細則第 18 条により、先ほど開催された理事長予定者会議にて、指名された以下 3 名の推薦理事の選任について、全会一致で承認された。

清水孝宏、祖父江和哉、室井延之（敬称略・五十音順）

### XIV. 監事選出

定款第 16 条および定款施行細則第 19 条により、以下 2 名の監事の選任が、全会一致で承認された。

田妻 進、比企直樹（敬称略・五十音順）

以上の改選手続きを経て、新理事会（理事長・副理事長・理事・監事）が決定された。

理事長 東口高志

副理事長 佐々木雅也

監事 田妻 進、寺本房子、土岐 彰、比企直樹

理事 飯島正平、石井良昌、犬飼道雄、遠藤陽子、倉田なおみ、小山 諭、小谷穰治、齋藤恵子、篠 聡子、清水孝宏、鈴木 裕、祖父江和哉、高増哲也、中瀬 一、鍋谷圭宏、野上哲史、福島亮治、二村昭彦、丸山道生、三原千恵、室井延之、山中英治、吉田貞夫、鷺澤尚宏

### XV. 名誉会員・特別会員推戴 表彰

名誉会員 土岐 彰（戸塚共立第二病院 顧問・TMG NST 部特別顧問）

特別会員 加藤章信（盛岡市立病院 病院長）

河内正治（帝京大学 教授 医学部附属病院安全管理部 部長）

標葉隆三郎（医療法人社団茶畑会 相馬中央病院 院長）

### XVI. LLL diploma 取得者 表彰

田中啓之（国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 腎臓内科）

長沼 篤（国立病院機構 高崎総合医療センター 消化器内科）

永野彩乃（西宮協立脳神経外科病院 看護部）

牧香代子（医療法人秀麗会山尾病院 療養病棟）

松井亮太（順天堂大学医学部附属浦安病院 消化器・一般外科）

和田 碧（神奈川県立がんセンター 栄養管理科）

### XVII. 実験研究委員会助成金授与者 表彰

授与者名：奥川喜永（三重大学消化管・小児外科学講座）

研究課題：大腸癌における Cancer-induced Cachexia のエピジェネティック因子の解明と制御

### XVIII. AWARD 受賞者 表彰

JSPEN スカラーシップ賞

授与者名：神谷貴樹（滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部）

以上